

## リンチ傷害致死事件(藤原正仁くん事件)の主犯のAが、少年院の中から被害者の父親に送った11通の手紙(メモ)

2年余りの少年院送致となつた審判の席で、正仁くんの父親は、Aに對面し、「反省が出来たら、お線香を上げに来い」と言われた。少年院から、Aは、下記11通の紙を送り、仮退院したその足で、父親宅を訪れた。父親は「おめでとう。今後は頑張れよ」と明るく言って下さった。Aは自らの罪の重さに身震いした。しかし現実に償いの人生が始まる。Aは、何十年も掛けて1000万円程度の償いのお金を支払い、時々お線香を上げに伺うそうである。下記は、Aが少年院の中から書き送った11通の手紙(ほんの大づかみな印象の流れだけ)である。月日は、傷害致死事件の日から数えている。

12月後 審判のときの「君もがんばれよ」とのお言葉を噛みしめつつ過ごしています。

私は、苦しいところ、辛いところにも踏み込んで、本当に自分を変えたい、変わりたいと思っています。私が変わって仮退院した時、お線香を上げに行かせて下さい。

18月後 地元の友達と楽しく遊ぶようでは、賠償金をお支払いしたり、お墓参りにお伺いしたりしても、十分な償いにならないのではと悩んでいます。もう友達と会わないように、仮退院後は神戸を離れて住もうかと思っています。

19月後 友達と離れるかどうか悩んでいましたが、藤原さんの一生の辛さと比べると、何とレベルの低いことで悩んでいたかと反省しています。友達と離れる程度のことは当たり前だと気が付きました。(これから毎月お便りさせて下さい)。

20月後 少し前に見た被害者遺族の方のビデオの中で、「人の命を奪ったのだから、自分の命で罪を償ってほしい」と言っておられました。

本当だと思いました。自分がやったことを一生背負って生きて行こう…自分が藤原さんたちに何ができるのかを毎日考えています。

21月後 外は寒いですが、指導の先生方に包まれ私の心は暖かいです。

藤原さんは寒いことでしょう。自分が藤原さんを暖めることはできないとは思いますが、ちょっとでも藤原さんが暖まる日がくるようにと思っています。

22月後 私が藤原さんたちに何ができるのか、考えても、「元の自分に戻らない、友達と手を切る、賠償する、自分のやったことを忘れない」という程度の形式的なことしか浮かび上がって来ません。私にしかできない「誠意」を見せないとダメだと指導され、それが何なのか分かりませんが、ありのままの自分を見せなければ…」と考えるようになりました。

23月後 2年目です。藤原さんには、いつにも増して、苦しく・辛く・悲しい時です。

私は、いつも事件のことを手にとって触ることができると思う位鮮明に思い出します。そして、自分を殴り倒してでも止めたいと自分に腹が立ちます。

私は今、藤原さんの本当のお気持ちをもっともっと知りたいと念願しています。

そして、その上で、社会に戻ったら「精一杯生きたい」とも念願しています。

24月後 遺族の方の手記を読んで、「正仁くんのはかり知れない不安と恐怖、命だけでなく家族との繋がりも奪ったこと、不良集団行為の意味」などを知り、自分勝手な軽い気持ちで人の命を奪ってしまったことを考えると、流れ落ちる涙がいつまでも止まりませんでした。

一生罪を償って行きたいと本当に心から思いました。

25月後 少年院での面会のことですが、自分がどれだけ変わったのか自信がなく、「誠意を見せられるか？藤原さんを傷つけないか？」と心配だらけで、流れて正直ホッとしました。少年院を出たら直ぐにお線香を上げに行かせて下さい。

26月後 自分の父親から示談が出来たと聞きました。賠償金の支払いなど決まった事柄は必ず守ります。それが終わっても、私が死ぬまで償い続けることは終わらせません。正仁くんが見て行くはずだったものを自分が見て行く、正仁くんが経験するはずだったものを自分が経験して行く、正仁くんが作り上げて行くはずだったものを自分が作り上げて行かねばならないと思っています。

藤原さん。私は正仁くんに恥じない生活をするをここで約束します。

27月後 間もなく社会へ戻ります。私は正仁くんと同じ歳になりました。正仁くんは少年院を出るとき、何を考え、何を感じ、どんな生活を送ろうとしたのだろうかと考えています。不安・自信・夢・希望・うれしさ・悲しさ・辛さ・いろいろ気持ちがあつただろうと思います。正仁くんの気持ちを知りたいと考え抜いているうちに、本当に何が自分の償いなのかが見えて来たように思っています。